

マスコミ各位

令和元年7月5日（金）

沖縄県保健医療部地域保健課 結核感染症班

担 当：久高、岡野

電 話：098-866-2215

呼吸器感染症(RSウイルス感染症、インフルエンザ)の 患者が増えています ～乳幼児のいる家庭や保育所、学校等ではご注意を！！～

1 概要

現在、本県ではRSウイルスとインフルエンザウイルスによる感染症患者が増加しています。

RSウイルス感染症は、全国的に秋頃より流行する呼吸器感染症ですが、本県では例年夏期に流行する傾向を示します。本県の第26週（6月24日～6月30日）の1医療機関あたりの報告数は7.32人（定点医療機関34カ所、報告数249人）となり、医療機関におけるRSウイルス抗原検査の保険適応対象が拡大された2011年以降の週別報告数としては、過去最多を示しました。なお、第26週における保健所別定点あたり患者報告数は、北部保健所が21.00人で最も多く、次いで南部保健所7.75人、那覇市保健所6.71人、中部保健所5.42人、宮古保健所および八重山保健所3.00人の順となっています。

県内のインフルエンザ患者発生状況について、平成31年1月16日に発令した「インフルエンザ警報」は同年3月6日に解除しておりますが、その後も患者発生は継続し、第21週以降は増加に転じています。第26週のインフルエンザ定点あたりの報告数は7.53人（定点医療機関58カ所、報告数437人）となっています。なお、第26週における保健所別定点あたり患者報告数は、那覇市保健所が9.17人で最も多く、次いで中部保健所8.85人、南部保健所8.57人、宮古保健所3.75人、北部保健所2.60人、八重山保健所0.67人の順となっています。また、7月1日～7月5日の間、11の施設からインフルエンザ様疾患による学級閉鎖等の措置報告があります。

これから夏休みとなり外出する機会が増えるため、今後これらの呼吸器感染症が更に拡大する可能性があります。RSウイルス感染症もインフルエンザも、感染予防策は「手洗い」や「咳エチケット※」が重要となりますので、マスコミの皆様も呼吸器感染症対策の周知について、改めてご協力いただきますようお願いいたします。また、県民の皆様、学校関係者の皆様におかれましては、引き続き感染予防策を徹底していただきますようお願いいたします。

※「咳エチケット」とは、飛沫感染防止のため、咳・くしゃみをする際に、①マスクをする、②マスクがなければティッシュで口・鼻を抑える、③どれも無い場合は口を手では抑えずに、二の腕で抑える、を実行することです。

2 RSウイルス感染症：5類感染症【定点把握】

RSウイルスを起因病原体とし、主な感染経路は咳、くしゃみ、会話等から発生する飛沫による感染（飛沫感染）であり、他にはウイルスに汚染された手指や物品を介した接触により感染する。年齢を問わず繰り返し再感染する。

臨床症状：成人では風邪様症状を起こす程度であるが、生後数週から数カ月の乳幼児、基礎疾患のある児、または高齢者が感染した場合は、肺炎などの下気道疾患等、重篤な症状を起こす危険性が高いため、特に注意が必要である。

潜伏期：2～8日

治療：対症療法

3 RSウイルス感染症の流行状況

RSウイルス感染症患者情報は、感染症発生動向調査事業において県内の小児科34定点医療機関の協力を得て、患者情報を週単位で収集し、全国約3,000カ所の定点情報と併せて分析し、県民及び医療機関に情報を提供しています。

定点当たりの患者報告数（直近の7週間）

	週	20週 5/13 ～5/19	21週 5/20 ～5/26	22週 5/27 ～6/2	23週 6/3 ～6/9	24週 6/10 ～6/16	25週 6/17 ～6/23	26週 6/24 ～6/30
県	患者数	30	54	35	47	104	146	249
	定点当	0.88	1.59	1.03	1.38	3.06	4.29	7.32
全国	患者数	862	1,028	766	650	820	925	1,016
	定点当	0.27	0.32	0.24	0.21	0.26	0.29	0.32

4 インフルエンザ（季節性インフルエンザ）：5類感染症【定点把握】

インフルエンザウイルスを起因病原体とし、毎年世界中で流行がみられる。主な感染経路は咳、くしゃみ、会話等から発生する飛沫による感染（飛沫感染）であり、他にはウイルスに汚染された手指や物品を介した接触により感染する。

臨床症状：38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が比較的急速に現れ、咳、鼻汁などの上気道炎症状がこれに続く。小児ではまれに急性脳症を、高齢者や免疫力の低下している方では肺炎を伴うなど、重篤な症状を起こす危険性が高いため、特に注意が必要である。

潜伏期：1～3日

治療：抗インフルエンザウイルス薬、対症療法

5 インフルエンザの流行状況

インフルエンザ患者情報は、感染症発生動向調査事業において県内のインフルエンザ 58 定点医療機関（小児科定点:34、内科定点:24）の協力を得て、患者情報を週単位で収集し、全国約 5,000 カ所の定点情報と併せて分析し、県民及び医療機関に情報を提供しています。

定点当たりの患者報告数（直近の 7 週間）

	週	20 週	21 週	22 週	23 週	24 週	25 週	26 週
		5/13 ~5/19	5/20 ~5/26	5/27 ~6/2	6/3 ~6/9	6/10 ~6/16	6/17 ~6/23	6/24 ~6/30
県	患者数	258	277	319	361	397	415	437
	定点当	4.45	4.78	5.50	6.22	6.84	7.16	7.53
全 国	患者数	4,559	3,092	2,442	1,714	1,240	977	898
	定点当	0.92	0.62	0.49	0.35	0.25	0.20	0.18

※感染症発生動向調査システム上の警報・注意報の発令基準値

流行注意報：定点当たり 10 人以上
 流行警報：定点当たり 30 人以上
 警報終息：定点当たり 10 人未満

県内の型別患者報告数（直近の 7 週間）

週	20 週	21 週	22 週	23 週	24 週	25 週	26 週
	5/13 ~5/19	5/20 ~5/26	5/27 ~6/2	6/3 ~6/9	6/10 ~6/16	6/17 ~6/23	6/24 ~6/30
A 型	40	41	53	78	75	79	65
B 型	175	208	234	235	272	283	328
不明	43	28	32	48	50	53	44

インフルエンザ様疾患による学校の措置状況（7/1~7/5）

	施設数	休校数	学年 閉鎖数	学級 閉鎖数	在籍者数	患者数	欠席者数	備考 保健所管轄別施設数
保育所	0	0	0	0	0	0	0	
幼稚園	1	1	0	0	37	10	10	北部1
小学校	3	0	0	9	253	88	61	中部3
中学校	2	0	0	2	63	18	18	南部1, 宮古1
高等学校	5	0	1	4	314	52	36	北部1, 中部4
その他	0	0	0	0	0	0	0	
計	11	1	1	15	667	168	125	

※この計上はインフルエンザ様疾患（38 度以上の発熱かつ急性呼吸器症状を示した疾患）によるものであり、他の疾病による欠席は含みません。

※同時期に学級閉鎖と学年閉鎖があった施設は、学年閉鎖 1 校と計上し、学級閉鎖の校数としては計上していません。

6 呼吸器感染症にかからないために

(流行時の予防方法)

- ① 食事の前や帰宅後には、必ず「手洗い」をしましょう。
- ② バランスよく栄養を摂取し、十分な睡眠をとりましょう。
- ③ 「咳エチケット」を実行しましょう。
- ④ 室内の換気に気をつけ適切な湿度を保ちましょう。
- ⑤ 流行中は、不要不急の外出を避けましょう。

7 呼吸器感染症にかかってしまったら

- ① かかりつけ医にまず相談、受診しましょう（救急医療をつぶさない）。
- ② 感染を広げないために、会社や学校を休み、安静にしましょう。
- ③ マスクを着用し、咳やくしゃみをする時は「咳エチケット」を守りましょう。
- ④ 乳幼児のいる家庭や保育園等では、お子さんが発症した場合、最初はただの風邪と違っていても呼吸状態に注意して下さい。

8 参考

● 厚生労働省「RSウイルス感染症Q&A」

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html

● 厚生労働省「インフルエンザ（総合ページ）」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuenza/index.html

● 沖縄県感染症情報センター「感染症発生動向調査 週報・月報 ～速報～」

<定点把握 18 疾患のグラフ・データ>に、RSウイルス感染症とインフルエンザの情報を掲載しています。

<https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjouhou/home.html#syugepou>

● 沖縄県感染症情報センター「インフルエンザ関連情報」

予防啓発ポスター・チラシを掲載していますので、職場や学校、保育園、ご家庭など、いろいろな場所でご活用ください。

<https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjouhou/influ.html>

インフルエンザのまん延を防ごう

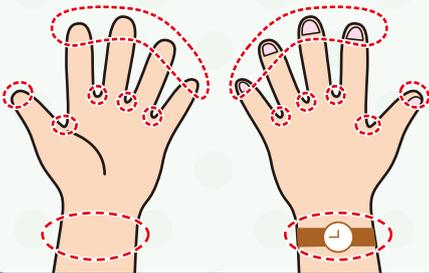
感染症対策の基本は

手洗いと咳エチケット

うつらないために手洗い



汚れが残りやすいところ



- ・指先や爪の間
- ・手首
- ・指の間
- ・親指の周囲
- ・手のしわ

うつさないために
咳エチケット



①マスクをする

②マスクが
無ければ
ティッシュで
口、鼻を抑える



③どれもない場合は、
口を手では抑えずに、
二の腕でおさえる

感染を防ぐために

日ごろしているものを予防チェック!

- 食事の前や帰宅後には必ず手洗い バランスのいい食事に努めている
- 休養を心がけて、睡眠時間を確保するようにしている インフルエンザの予防接種を受けている
- インフルエンザが流行しだしたら、不要不急の外出を避ける 咳エチケットを知っていて、実行している



救急医療をつぶさないために

かかりつけ医を受診しましょう

救急医療をつぶさない

救急病院に患者が集中すると、緊急を要する患者への対応が遅れてしまう危険があります。症状があれば、かかりつけ医にまず相談、受診しましょう。



インフルエンザ治療証明書を求めない

インフルエンザに罹患した場合、発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日(幼児にあっては、3日)を経過し健康が回復すれば外出の自粛を終了することが可能であると考えられています。そして、復帰に先だって医療機関を受診させ、治療証明書を求めることは意義がないとされております。地域保健課のホームページ「インフルエンザ罹患に伴う治療証明書を求めることについて」もご参照ください。

インフルエンザの予防に関する相談窓口

北部保健所 Tel.0980-52-5219 / Fax.0980-53-2505

中部保健所 Tel.098-938-9701 / Fax.098-938-9779

南部保健所 Tel.098-889-6591 / Fax.098-888-1348

宮古保健所 Tel.0980-73-5074 / Fax.0980-72-8446

八重山保健所 Tel.0980-82-4891 / Fax.0980-83-0474

那覇市保健所 Tel.098-853-7971 / Fax.098-853-7967

相談受付 平日 午前8時30分～午後5時15分

沖縄県保健医療部地域保健課 ▶ Tel.098-866-2215 Fax.098-866-2241



地域保健課
facebook



地域保健課
HP



沖縄県感染症
情報センターHP

子どもの急な病気に困ったら、まず☎!

小児救急電話相談

受診した方が良いのか、様子を見ても大丈夫なのか、看護師や医師が電話でアドバイスします。

プッシュ回線の固定電話・携帯電話からは、局番なしの

#8000

※ダイヤル回線、ひかり電話等、#8000をご利用いただけない場合は、098-888-5230からご利用ください。

※相談日時は、平日/19:00～翌朝8:00
土日祝日/24時間対応